

第3回みなみ協議会 会議事録

日時：3月10日(月) 15:00-16:55 @会議室

司会：副校長 記録：研究開発G(大内)

出席者

金井 信高(神奈川県立保健福祉大学副学長)
細野 裕(キャリア教育コーディネーター 保護司)
島田 徳隆(NPO法人アンガージュマン・よこすか理事長)
新田 将之(横須賀市立久里浜中学校長)
スコムスキー・久美子(横須賀国際交流協会事務局次長)
小松 加代子(横浜fカレッジ専学校教務部長)
重野 美奈子(NPO法人ぼくのくれよん理事長)
関島 忍(元久里浜中学校長)
浅葉 清志(久村町内会長)

<横須賀南高校>

平校長 金井副校長 櫛引教頭 大石総括教諭 二瓶総括教諭 小川総括教諭 村上教諭
長島総括教諭 山崎総括教諭 林総括教諭 大内教諭(記録)

計20名

・はじめに(金井会長)

卒業式の招待の感謝。コロナ収束後の本来の学校生活の活動報告を楽しみにしている。

・校長より

第2回みなみ協議会以降の学校活動の様子を伝えたい。

今年度の入試選抜では、普通科118名、福祉科78名を募集定員に対し、福祉科は定員割れとなったので二次募集を実施することになったが、普通科は定員を超える志望者数となった。少しずつ本校のことが地域に浸透してきたと思う。

<協議内容>

(1) 各グループ業務取組報告(各グループリーダー)

教務G(大石)

今年度は3学年すべてが新カリキュラムでの教育活動の実践となった。今年度の反省をいかして、カリキュラムと指導と評価の再検討をしていきたい。

進路G(二瓶)

5期生の進路決定率は90%を超える結果となった。来年度は企業に声掛けし、3年生向けの進路ガイダンスを行い、生徒たちが直接社会人に触れる経験を増やしていきたい。

広報連携G(村上)

中学校訪問では、退学者の名簿を参考資料としながら、生徒と学校のミスマッチが起きないように話をしてきた。学校説明会では、前年度の見学者のアンケートを反映させた。見学者の受け入れ人数の上限を撤廃し、本校での説明会を開催した。生徒会の生徒による案内や部活動体験を取り入れて、学校の雰囲気を示すようにした。

生活指導G(長島)

今年度の指導件数・指導人数は前年度より半減している。特に1年生の件数が少なく、重大な案件は1件も出ていない。生徒の特質が変化しているようで、暴力行為等はなくとも、マナーを知らない生徒が徐々に増えている。また4人に1人は不登校の経験があるという状況のため、社会性・他人とのコミュニケーションなどを指導していく必要がある。

生徒支援G(山崎)

今年度の目標は、文化祭を生徒主体で運営していくこととした。生徒の意見を大きく反映させた文化祭をつくりあげることができた。3月にはスポーツ大会を予定している。生徒の声を主体に教員はサポートをするというかたちで実施したい。生徒支援では外部機関との連携を強めることを目標とした。スクールカウンセラー

の利用は昨年よりも減少したが、スクールソーシャルワーカーの使用は50%増え、生徒よりも保護者の相談件数が増えた。生徒60件、保護者60件となっている。保健室の利用状況は、内科・外科・相談があるが、なかでも相談での利用が多かった。スクールカウンセラーを利用しないまでも保健室での相談が多くなっている。1年生の相談件数は1274件となり、昨年度の1年生の利用件数を優に超えている。近年、生徒の相談内容は多様である。生徒支援グループでは、外部連携との連携をさらに強化していくよう気を配っていく。早期の把握・対応が必要である。

研究開発G（林）

SDGsの指定校事業において、ユニクロ服のチカラプロジェクトを国際交流委員会を中心に実施した。また3月には、学習成果発表会を校内で実施する。発表団体は9つ、展示団体は6つとなっている。お時間があればぜひいらしていただければと思う。また、みなみハート会議において、わかりやすい授業の展開のために教員向けの研修を実施した。新しいテーマとして、学校に登校できなくなった生徒のためのICT研修も実施した。

授業評価アンケートでは、「先生の授業はわかりやすかったか？」という質問において各教科高い結果となった。3年生対象の魅力と特色ある県立学校アンケートでは、両科ともに高い評価を得た。「中学校では学校に通えなかったが、高校に入ってから学校に対する満足度」、「学校で学んだことは今後の自分に役立つと実感しているか」という質問も高かった。「中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身についたか」という質問では普通科が98%、「高校生活を通して夢や希望を持てたか」というのも87%が該当した。将来に対して希望を持つ生徒がいるのは嬉しく思った。

（2）質疑応答・意見交換等

・進路グループの職業体験はどのようなところに行くのか？→職業体験の場所として、看護・保育系が大半である。

・職業体験場所は足りているか？→県のインターンシップが管轄下である。そもそも職業体験（インターンシップ）の参加生徒はそれほど多くない。県のインターンシップは、事業所毎に担当教諭が決められており、他校の生徒の対応もしている。地域のインターンシップを担っていると考えももらいたい。本校としては、独自の事業所を開拓していきながら、主に職業体験はそちらへシフトチェンジしていきたい。

・教員の負担を減らすには？→自校だけでなく同じ場所で実習を行う他校の生徒との連絡が大変である。福祉科の実習場所は、例年同じだから、いまのところ問題はない。

（不登校の生徒の対応について）

・最も大変なのは1年生の時である。学年が上がるとある程度は自分で解決できる。昨年度に学校を退学したのは20人前後で、退学した生徒の60%が集団生活になじめなかった。ちょっとした周りからの刺激でメンタルにダメージを受ける。夏休み明けで未履修になる。そのため11～12月あたりで保護者面談を設け、進路変更を促す。退学者は通信制高校への転学が多い。

・保護者のスクールカウンセラーの活用が増えたとあるが、内容はどんなものか？→保護者が子どもとの関わり方にどうしていけばよいのかわからないといった相談内容が多い。

・教員のメンタルも心配。生徒・保護者は相談できる場所があるからよいが、教員はないように見える。そういう場があればよいと思う。

・サポートドックの活用はどうか？→年2回の5・10月に実施。事前の準備が大変である。年2回の保護者・生徒面談を実施しているので負担ではある。1・2・3年それぞれ集約したデータをスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーとで共有し、結果をふまえた対応策を考えるのに苦慮した。だが、メリットとして自分で相談できない生徒を見つけやすく、実際に見つけた生徒の対応ができた。

・担任の立場で見ていて、サポートドックは、プッシュ型面談を積極的にやったほうが良いとわかるので助かる。

・横須賀南高校は生徒支援に力を入れているので、あたりまえのようにサポートドックを受け入れているが、他校ではさほど必要としていない。横須賀南の教員が負担のないようにやっていただけたらと思う。

・横須賀南高校の教員は今の教育の最先端にいる。私は不登校生徒支援の民間団体、虐待被害の生徒の勉強を見ているが、小学校から支援をはじめると感じている。これからこういった場が確実に増えるが、教師になる人が少ない。

・先生方の報告を聞いて、大変だと思った。町内会に青少年育成部があるが、何もしていない。町内会で青少年を育成するというのは、何をすればよいのか分からないと聞いている。今の子どもは家庭で基本的な生活をしていない。親もそれをしていないし、知らない。社会を知らないまま生きており、そのしわ寄せが中学・高校にきている。学校教育の前に基本的な人生で習得すべきものがない。

・生徒が主体となって活躍している報告が聞けて嬉しい。私たちは障害者の対応をしており、精神疾患の方とも関わっているが、最近急増している。自分の考えで行動することを学んでいない生徒が引きこもってしまいがちである。「どうしたらよいのか分からない」という20代の相談が多くなっている。話は聞くが、自分で解決すべきとアドバイスをしている。学校の中ですべて解決できるというわけではないが、学校さえ行けば刺激にはなると思う。それをサポートしているので何かあったら役に立ちたい。

- ・進路グループでは、1～5期生が90%の進路決定をしていると聞いてすごいと思った。4人に1人の不登校生徒の進路指導は大変だと思う。横須賀南を選んできた生徒のケアの期待を裏切ることなくやっている。
- ・卒業式で普通科の生徒たちの誇らしい顔が見られてよかった。アンケートの数値が高くなったのは、先生たちの苦勞の甲斐があったからだと思う。
- ・学校は何をやるか？何ができるか？を考えている。「勉強嫌だ」「人と関わるのは嫌だ」という生徒がいる。何か原因があって不登校になったというわけではない生徒が増えている。
- ・小学校から苦しんでいる児童が中学生になってからも苦しんでいる。支援と指導が表裏一体となってやっていくべき。子どもの人数が減っているからというものもあるが、コロナの影響もあって、かなりのコミュニケーション能力の育成の機会が減った。
- ・広報連携グループの動画作成について、文化祭では生徒が楽しそうだったので、それを公開しても面白いかなと思う。保健室相談の急増について、対応する教員の増加が望ましい。アンケートの結果より、自己肯定感を3年間で培ってきたのが見られる。

3. 各部会議事録

評価部会 議事録

メンバー：小松、二瓶、大石、小林（記録）

<内容>

- ・魅力と特色ある学校づくりアンケート結果について
- ・進路選択について
- ・生徒情報共有ツールについて

福祉部会 議事録

メンバー：重野、小川、村上、富永（記録）

<内容>

- ・福祉科の入学者減に対する取組について
- ・名称変更やカリキュラムの充実など

クリエイティブ部会 議事録

メンバー：島田（部会長）関島、細野、長島、山崎、高橋（記録）

<内容>

- ・今年度の教育活動「みなみまな部」について
- ・学び直しのカリキュラム検討について
- ・不登校生徒に対する支援、学力不足の生徒に対する支援などについて